

特別展「夢はこぼ “かがやき” ―軌道117年のあゆみ―」出品リスト
〔会期:平成26年7月26日(土)～10月13日(月・祝)〕

1. 民営中越鉄道と官営北陸鉄道の開通						
No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横, cm)	備考	所蔵先など
1	東北鉄道会社創立願(積文複写)	明治14年 (1881)8月	1	—	東西本願寺門主や北陸の旧藩主ら13名から東京府知事宛。北陸初の鉄道敷設計画(富山―敦賀間)だったが実現せず	『富山県史』史料編IV近代上(富山県、1978年)。原本・富山市呉羽中学校蔵
2	「北陸鉄道会社創立願」(積文複写)	明治21年 (1888)6月30日	1	—	島田孝之ら54名から内閣総理大臣伯爵黒田清隆宛。私設北陸鉄道会社設立と富山―武生間の鉄道敷設を求めたが実現せず	「太政類典・公文類聚」。原本・交通博物館蔵(写本・国立公文書館蔵)
3	中越鉄道敷設願書(複写)	明治26年 (1893)10月7日	1	—	発起人吉田茂勝ら20名(うち14名は砺波郡出身者)から通信大臣伯爵黒田清隆宛	原本・交通博物館蔵
4	新聞記事「中越鉄道創立認可広告」(複写)	「富山日報」明治28年(1895)3月21日付	1	—	明治28年11月9日に中越鉄道(株)設立。初代社長は大矢四郎兵衛	—
5	写真「吉田茂勝」(複写)	生没年:安政5～明治35年 (1858～1902)	1	—	現・富山市諏訪河原町出身。明治初年に上京し土木工学を修め、関西地方で土木工事にも従事。帰郷後は、島田孝之・大矢四郎兵衛らに呼びかけ中越鉄道開通に尽力	「城端線開通百年展」(砺波郷土資料館、1997年)
6	写真「大矢四郎兵衛」(複写)	生没年:安政4～昭和5年(1857～1930)	1	—	鷹栖村(現・砺波市)出身。吉田茂勝・島田孝之らとともに、中越鉄道の敷設や会社設立に尽力	「城端線開通百年展」(砺波郷土資料館、1997年)
7	写真「島田孝之」	生没年:嘉永3～明治40年 (1850～1907)	1	—	砺波郡島新村(現・高岡市島新)出身。私設北陸鉄道敷設に奔走し、吉田茂勝らとともに中越鉄道開通にも尽力	個人蔵
8	写真「藤井能三」	生没年:弘化3～大正2年(1846～1913)	1	—	射水郡伏木村(現・高岡市伏木)出身の実業家。伏木の教育・海運・築港、中越鉄道敷設にも尽力	藤井利美氏蔵
9	写真「千保川大洪水・中島町」・「洪水の惨状」	明治29年(1896)	2	—	同年7月21日から8月2日の集中豪雨と長雨により庄川堤防が決壊し、庄川と千保川は大洪水を引き起こした	高岡市蔵
10	高岡市の水害図(複写)	「富山日報」明治29年(1896)8月5日付	1	—	同年の千保川大洪水で市内の浸水箇所を表したもの。博労町に建設予定の高岡駅は浸水したため下黒田に仮駅を設置	『千保川通信第二号』(千保川を語る会、2007年)
11	写真「現在の黒田駅舎跡」・「中越鉄道・黒田駅舎(看板)」	平成26年(2014)	2	—	黒田駅は明治31年1月2日まで仮設置された。看板は、平成8年下黒田自治会と高岡市教育委員会により設置	当館蔵
12	新聞記事「鉄道大明神／中越鉄道汽車開業広告」(複写)	明治30年 (1897)5月9日付	1	—	富山日報。黒田(高岡市下黒田)―福野間(現・城端線)で県内初の鉄道が開通。開業式は5月9日瑞龍寺にて举行	—
13	写真「中越鉄道開通当時の機関車弁慶号」(複写)	明治30年代	1	—	明治30年から27年間に中越鉄道で活躍後、大正13年に電気化学工業青海工場へ譲渡され、1号機として登録	原本・南砺市立中央図書館蔵
14	写真「中越弁慶号」	平成26年(2014)	1	—	明治29年英国マンチェスターのナスミス・ウィルソン社製。昭和40年砺波市へ寄贈、現在は砺波チューリップ公園で展示中。砺波市指定文化財	当館蔵
15	『中越鉄道 開業二十周年誌』	大正5年(1916)5月	1	18.9×12.9	中越鉄道(株)設立20周年を記念して発行されたもの。冒頭には沿線沿いの名勝写真などが掲載	高岡市立中央図書館蔵
16	「中越鉄道株式会社線路略図」(複写)	大正5年(1916)5月	1	—	城端から高岡・伏木・氷見までの中越鉄道及び北陸線などが記された線路略図。『中越鉄道 開業二十周年誌』付属図	高岡市立中央図書館蔵
17	写真「太田雨晴女岩及ヒ汽車通過ノ景」	大正7～昭和7年 (1918～32)頃	1	—	雨晴海岸女岩沿いの中越線(現・氷見線)線路を通過する蒸気機関車。写真絵葉書	当館蔵

18	写真「越中義経雨晴の全景」	大正7～昭和7年(1918～32)	1	—	雨晴海岸沿いを走る蒸気機関車。写真絵葉書	当館蔵
19	写真「中越線・雨晴海岸雄巖」	大正7～昭和7年(1918～32)頃	1	—	雨晴海岸沿いの中越線線路を写した写真絵葉書。「雄巖(男岩)」とあるが、これは女岩の誤り	当館蔵
20	土地収用につき引渡執行調書	明治33年(1900)9月	1	28.1×20.0	立会人は伏木町長・澤田保、中越鉄道(株)起業者正村義太郎代理社員・岩根一重。中鉄伏木延長による鉄道敷設地獲得のための土地買収調査書類	高岡市立伏木図書館蔵
21	写真「小矢部川の橋上を走る中越鉄道」	明治33年(1900)12月29日	1	—	中鉄高岡－伏木間の開通式は同年12月29日に伏木駅で挙行。この写真はその帰りに米島辺りの小矢部川鉄橋を渡る途中で汽車を停車させ記念撮影されたもの	高岡市蔵
22	中越鉄道の伏木延長につき祝辞	明治33年(1900)12月29日	1	22.7×74.5	藤井能三が中越鉄道の高岡－伏木間開通式で読み上げた祝辞文	高岡市立伏木図書館蔵
23	写真「最初の伏木駅」(複写)	明治33年(1900)12月29日	1	—	同年12月14日試運転、29日に伏木駅の開業と祝賀式の挙行。初代伏木駅は、現駅(3代目)の約200m北東の旧「伏木駅貨物取扱所」(伏木錦町16-8)にあった	『ふるさと高岡』(郷土出版社、2009年)
24	写真「伏木駅」	昭和25年(1950)	1	—	開通50周年を祝う看板塔が建つ2代目伏木駅(大正8年7月12日建設)。現駅は昭和27年12月26日に建設	高岡市蔵
25	伏木駅作業株式会社 法被		1	身丈80.8 桁丈65.0	法被の両衿に「伏木駅作業株式会社」の社名、背中には社標あり	当館蔵 (座谷正雄氏寄贈)
26	中越鉄道伏木開通につき尽力者へ感謝状文(案)	明治34年(1901)8月15日	1	23.7×33.4	伏木町会議長、伏木町長・岡本普喬から中鉄伏木開通にあたり尽力した人々25名に贈られる感謝状文(案)	高岡市立伏木図書館蔵
27	「汽車時間表」	明治34年(1901)1月	1	32.8×38.9	金沢・富山・城端・伏木行きの時刻表。発行・富山県高岡市塩谷活口(版)所	個人蔵
28	高岡－伏木間鉄道開通につき土地分割届	明治36年(1903)2月6日	1	24.1×17.9	中越鉄道(株)社長・正村義太郎から高岡税務署長・伊東本三郎宛。伏木町大字新嶋町地内の土地分割届	当館蔵 (高野光子氏寄贈)
29	伏木町串岡村地内絵図	明治後期	1	40.2×54.9	作成・高野源蔵。伏木町串岡村地内(現・伏木古府、伏木矢田上町)の絵図。伏木までの鉄道敷設に必要な土地買収を記したものか	当館蔵 (高野光子氏寄贈)
30	「中越鉄道氷見延長に付取調野帳」	明治44年(1911)	6	—	中越鉄道氷見までの延長に伴ない、伏木本町・新町・新嶋町・古国府町・国分村・一宮村地内を測量調査した際の書類	当館蔵 (高野光子氏寄贈)
31	「踏切番志願書」(案)	明治後期	1	17.8×15.1	伏木町大字一宮村・岩脇嘉四郎から中越鉄道(株)宛。中鉄氷見延長に伴ない、沿線の踏切において踏切番を志願する書類	当館蔵 (高野光子氏寄贈)
32	新聞記事「中越鉄道氷見線の全通」(複写)	大正元年(1912)9月19日付	1	—	高岡新報。島尾－氷見間の開通をもって城端－氷見間が全通した	—
33	「中越鉄道官営請願書」	明治43年(1910)1月	1	24.3×18.2	高岡商業会議所会頭・木津太郎平から衆議院議長宛。大正9年9月1日付で、民営中越鉄道は鉄道省に買収・国鉄化	高岡市立伏木図書館蔵
34	新聞記事「中越鉄道の国有化実施(複写)」	大正9年(1920)9月2日付	1	—	富山日報	—
35	「中部日本交通地図」	大正12年(1923)1月	1	38.6×54.8	中部地方が中心に描かれた交通地図。「新愛知」の新聞付録	個人蔵
36	高岡東部耕地整理組合地区原形図	大正12～13年(1923～24)	1	398.4×183.3	縮尺1,200分の1。貫田隆義・尾川亀次郎・山口住晴3名の製図。高岡停車場(駅)から南北に走る中越線と東西に走る北陸線の路線を描く	当館蔵 (塚本武彦氏寄贈)
37	「中越線戸出駅発時刻表」(複写)	大正14年(1925)	1	—	城端・氷見方面へ向かう戸出駅発着の時刻表	吉田彦夫氏蔵
【中央のぞきケース】						
38	「大日本全国鉄道路線細見図」	明治29年(1896)9月	1	35.2×50.6	鉄道路線図に小杉町の藻谷商店の引札が合わさったもの。編集・大室音吉	個人蔵
39	「鉄道路線及賃金里程表」	明治32年(1899)12月	1	35.2×75.8	全国の鉄道路線や乗車運賃、距離などが記される。発行・天正堂	個人蔵

40	「富山県管内実測全図」	明治32年 (1899)3月	1	54.8×44.2	中越線が伏木まで延長される前年の地図。南は城端までが開通し、東西には官営北陸線が走る	個人蔵
41	「伏木新報」	明治40年 (1907)1月2日付	1	38.8×54.6	汽車発着時刻表が背折り部分に印刷	個人蔵
42	「高岡新報」	大正12年 (1923)9月5日付	1	55.0×80.7	汽車発着時刻表が背折部分に印刷。高岡新報は北日本新聞の前身(明治22年創刊「高岡商況」に始まる)	個人蔵
2. 高岡駅の変遷						
1	写真「官営北陸鉄道・高岡駅開業」	明治31年 (1898)11月1日	1	—	旧下関村地内に建設された初代高岡駅。この日に官営北陸鉄道金沢－高岡間が開通し、営業を開始した	高岡市蔵
2	新聞記事「北陸鉄道金沢－高岡間の開通」(複写)	明治31年 (1898)11月2日付	1	—	「北陸政論」。高岡駅前には高大な緑門が建ち、市内より多くの人々が集まり開通を祝った	—
3	新聞記事「北陸鉄道開通式」(複写)	明治32年 (1899)3月21日付	1	—	「北陸政論」。開通式は、同年3月20日に富山市田刈屋地内の富山仮駅(明治41年に現富山駅の位置に移転)にて	—
4	新聞記事「北陸線に急行列車走る」(複写)	大正11年 (1922)3月12日付	1	—	「富山日報」。同年3月15日より北陸線に2本の急行列車が走行開始(上野－金沢間と富山－神戸間)。夜間急行で、県内停車駅は魚津・富山・高岡・石動の4駅	—
5	写真「高岡駅舎改築」	大正5年(1916)9月	1	—	全面改築された2代目新駅舎。右側は電話交換棟、左側は荷物取扱棟、中央改札棟は吹き抜け	神保成伍氏蔵
6	写真「高岡駅前タクシー」	大正後期	1	—	駅前にはドイツ製タクシーが並ぶ。県内初のタクシー会社「高岡自動車」は、大正7年に車1台で創業開始した	神保成伍氏蔵
7	写真「駅前のグリーンホール」	昭和2～3年 (1927～28)	1	—	右側には県内初デパート・グリーンホール(大正12年開業)。1階は食堂、2,3階は百貨店、ホールでは展覧会も開催。戦時中の建物疎開で取り壊された	神保成伍氏蔵
8	「高岡駅発着汽車時刻表」	昭和6年(1931)9月1日改正	1	39.2×54.0	高岡駅発着の上り・下り方面、城端・氷見・新湊方面の汽車時刻表。発行・高岡市印刷業組合	神保成伍氏蔵
9	列車プレート「富山－城端」		1	18.0×60.0	富山－城端間を走った列車プレート。蒸気機関車の客車側面に設置	川田喜作氏蔵
10	写真「高岡駅前」	昭和初期	1	—	正面には広場、左側にはグリーンホール	神保成伍氏蔵
11	『旅客案内 高岡駅』	昭和7年(1932)	1	13.0×9.0	高岡駅発着の時刻表や乗車運賃などが掲載。発行・高岡駅	当館蔵
12	「北陸線汽車時刻表」	昭和7年(1932)4月12日現行	1	13.0×38.7	「産業と観光の大博覧会」(同年4月12日～6月5日。於・金沢市)開催で発行された臨時列車の時刻表	当館蔵
13	「時刻表」	昭和29年 (1954)10月1日改正	1	13.7×44.2	北陸本線・城端線・氷見線などの時刻表。発行・金沢鉄道管理局	個人蔵
14	日本遊覧旅行地図	昭和11年 (1936)8月	1	26.0×230.2	全国の鉄道路線図に加えて主要都市の鉄道路線詳細図が掲載されている。校閲・高橋勝。『キング』付録	個人蔵
15	全国遊覧案内地図	昭和14年 (1939)3月	1	19.2×227.4	樺太・台湾などを含む全国鉄道路線図。発行・東京地下鉄道(株)遊覧課	個人蔵
16	最新改訂版 鉄道案内	昭和18年 (1943)8月	1	8.9×106.2	全国の鉄道路線案内図。発行・帝国地図出版社支社	個人蔵
17	新日本鉄道地図	昭和21年 (1946)10月	1	17.8×71.0	全国の鉄道路線図。編集・交通運輸研究会。発行・天泉社	個人蔵
18	最新 鉄道地図	昭和34年 (1959)5月	1	10.2×178.8	全国の鉄道路線図。発行・塔文社	個人蔵
19	乗車切符「富山駅発高岡駅行」	昭和39年 (1964)3月8日	2	(2点同形) 4.8×2.5	北陸本線富山駅発高岡駅行の乗車切符	神保成伍氏蔵
20	乗車切符「二塚駅発高岡駅行」	昭和36年 (1961)7月25日	1	4.9×2.4	城端線二塚駅発高岡駅行の乗車切符	神保成伍氏蔵

21	国鉄 懐中時計	昭和29年 (1954)、同45年	2	—	J Rが国鉄時代に、時刻確認のために列車取扱い職員に配給した懐中時計	坂下雅美氏、 川田喜作氏蔵
22	汽車茶瓶・ポリ茶瓶	昭和期	4・1	—	汽車茶瓶は駅弁などと一緒に販売された。明治中期に登場し、土瓶型は汽車土瓶という。ポリ茶瓶は昭和30年代に登場したが、現在はペットボトルが主流となった	神保成伍氏蔵
23	写真「高岡駅前」	昭和30年代	1	—	残雪残る高岡駅前の交差点付近	神保成伍氏蔵
24	写真「拡張前の駅前広場」	昭和34年(1959)	1	—	路面電車とバスの発着が同じ場所であった	神保成伍氏蔵
25	写真「高岡民衆駅と駅前広場の完成」	昭和41年 (1966)11月	1	—	駅地階は飲食店、1階は駅舎、2階は土産物店、3階は貸ホールとゲームコーナーが開設	神保成伍氏蔵
26	新聞記事「高岡民衆駅の完成」(複写)	昭和41年 (1966)12月1日付	1	—	「北日本新聞」。総工費6億4千万円。同40年11月着工し翌年12月1日に完工。完工祝賀式は高岡市民会館にて挙行	—
27	写真「高岡駅前地下街工事」	昭和44年 (1969)9月	1	—	北陸では金沢に次ぐ2番目の駅前地下商店街を建設、駅地階と連結した	神保成伍氏蔵
28	写真「駅前地下街完成後の広場」	昭和45年(1970)	1	—	広場には2つの地下街換気塔、地下商店街への階段塔が建つ	神保成伍氏蔵
29	新聞記事「高岡駅前地下商店街 全店オープン」(複写)	昭和45年 (1970)7月1日付	1	—	「北日本新聞」。総工費4億円。工事は同44年4月着工し翌年7月1日に完工。地下街はコの字型で9か所に階段が設置	—
30	写真「末広町通り」	昭和62年(1987)	1	—	高岡駅を背にした末広町通り	神保成伍氏蔵
31	写真「高岡駅前」	平成24年 (2012)1月	1	—	改修工事前の高岡駅前付近	神保成伍氏蔵
32	新聞記事「高岡駅3事業が着工(駅ビル新築・万葉線延伸・北口歩行車道)」	平成24年 (2012)9月16日付	1	—	「富山新聞」。高岡駅3事業の安全祈願祭が9月15日に行われ、整備事業が開始	—
33	高岡駅周辺整備事業パンフレット	平成24年(2012)	1	29.7×21.0	高岡駅北口広場、人口デッキ、万葉線沿線などの整備事業案内パンフレット。	高岡市制作
34	写真「Curun TAKAOKA(古城公園口)」・「高岡駅(瑞龍寺口)」	平成26年(2014)	2	—	同年3月29日に新しく開業した高岡ステーションビル「Curun TAKAOKA」。「c」はクリエイティブ、「u」はアーバンを「run」と組み合わせた造語。6月1日には地下街も営業を開始した	当館蔵

【中央のぞきケース】

35	『鉄道旅行案内』	大正11年 (1922)7月	1	11.0×19.0 ×厚3.0	鉄道開設50年記念に発行された沿線案内。大正10年初版。編集・鉄道省。発行・榊博文館	神保成伍氏蔵
36	新湊町鳥瞰図リーフレット	昭和10年(1935)	1	17.5×60.8	新湊町(現・射水市)を中心に描く鳥瞰図	当館蔵
37	高岡市街鳥瞰図リーフレット	昭和11年(1936)	1	17.6×49.7	高岡市を中心に描く鳥瞰図。原図・吉田初三郎。発行・高岡市役所	当館蔵
38	富山市街鳥瞰図リーフレット	昭和11年(1936)	1	19.4×99.2	富山市を中心に描く鳥瞰図。原図・吉田初三郎。発行・富山市役所	当館蔵

3. 特急列車の登場と北陸新幹線

1	写真「蒸気機関車C11 217」	平成26年(2014)	1	—	昭和16年7月製造。同36年末から多治見・名古屋、七尾機関区を経て、富山第一機関区高岡支局に配置され、その後城端線・氷見線で活躍。同44年11月より高岡古城公園三の丸で保管中	当館蔵
2	新聞記事「特急“白鳥”北陸線にデビュー」(複写)	昭和36年 (1961)10月1日付	1	—	「北日本新聞」。「白鳥」は、大阪ー青森・上野間を走る北陸線初のディーゼル特急。富山駅では、歓迎の横断幕を掲げるなど祝賀気分を盛り上げた	—
3	新聞記事「北陸本線富山ー金沢間の電化完成」(複写)	昭和39年 (1964)10月1日付	1	—	「富山新聞」。総工費33億円。富山ー金沢間(62.5km)の電化完成	—
4	新聞記事「北陸本線全線複線・電化完成」(複写)	昭和44年 (1969)10月2日付	1	—	「富山新聞」。同31年の米原ー敦賀間複線電化以来14年ぶりに北陸本線の複線電化完成。同年10月1日に金沢で完成祝賀式の挙行	—

5	列車運転時刻表	昭和62年(1987)、同63年	2	—	高岡－富山間、松任－富山間の列車時刻表	個人蔵
6	氷見駅入場券	昭和40年(1965)	1	2.5×5.8	氷見駅の普通入場券。料金は10円	当館蔵
7	金沢駅入場券「日本海博記念・北陸線特急シリーズ」	昭和48年(1973)	10	各5.9×14.6	日本海博(8月18日～10月14日)開催にあわせて発行した記念入場券。白鳥・雷鳥・しらさぎ・はくたか・ひだ・日本海・北越・白山・つるぎ(登場順)の写真入り。発行・金沢鉄道管理局	当館蔵
8	金沢駅入場券「日本海博記念」	昭和48年(1973)	1	6.0×14.6	日本海博開催にあわせて発行した記念入場券。発行・金沢鉄道管理局	当館蔵
9	金沢駅入場券「寝台特急・北陸号運転記念」	昭和50年(1975)	1	6.3×15.2	寝台特急「北陸号」運転記念に発行した記念入場券。発行・金沢鉄道管理局	当館蔵
10	金沢駅入場券「特急・加越号運転記念」	昭和50年(1975)	1	6.2×15.2	寝台特急「加越号」運転記念に発行した記念入場券。発行・金沢鉄道管理局	当館蔵
11	高岡駅入場券「高岡駅開業80周年記念」	昭和53年(1978)	1	5.9×15.9	高岡駅開業80周年記念に発行された記念入場券	当館蔵
12	城端線各駅入場券「城端線フラワーライン完成記念」	昭和55年(1980)	8	各5.7×15.2	沿線各駅に特徴のある花や樹木などが設置されたことにあやかり、城端線は別名「フラワーライン」とも呼ばれる	当館蔵
13	伏木駅入場券「伏木駅開業80周年記念」	昭和55年(1980)	1	6.0×17.9	伏木駅開業80周年記念に発行された記念入場券	当館蔵
14	「高岡駅米寿(88歳)記念入場券」	昭和60年(1985)	3	各6.5×16.0	高岡駅開業88周年(米寿)記念に発行された記念入場券	当館蔵
15	急行・特急列車 乗車口看板		9	—	急行きたぐに、特急日本海・はくたか・しらさぎ・雷鳥・スーパー雷鳥の乗車口看板	個人蔵
16	L特急「雷鳥」ヘッドマーク	昭和57～平成15年(1982～2003)	1	奥行53.0×幅106.4×厚3.8	ヘッドマークは列車の先頭と最後尾車両に取り付けられたもの。雷鳥は、昭和39年12月に大阪－富山間(後に大阪－金沢間)を結ぶ特急として登場、平成23年3月廃止までの46年間にわたり走行	西日本旅客鉄道株式会社金沢支社蔵
17	写真「津幡－倶利伽羅間を走る特急雷鳥」・「福岡－石動間を走る特急雷鳥」		2	—	県内を走行する特急雷鳥	西日本旅客鉄道株式会社金沢支社蔵
18	特急「スーパー雷鳥」ヘッドマーク	平成前期	1	奥行53.6×幅105.8×厚3.9	正式なスーパー雷鳥編成のものではなく、代走でボンネット型車両が使用された際のもの。スーパー雷鳥は、平成元年3月に大阪－富山・和倉温泉間を結ぶ特急として登場。同13年3月改正で廃止	西日本旅客鉄道株式会社金沢支社蔵
19	写真「特急スーパー雷鳥と特急かがやき(津幡－森本間)」・「石動－倶利伽羅間を走るスーパー雷鳥」		2	—	県内を走行する特急スーパー雷鳥	西日本旅客鉄道株式会社金沢支社蔵
20	J R特急列車編成表	平成23年(2011)3月～同24年3月	1	130.2×74.0	特急はくたか・しらさぎなどの列車編成表。高岡駅用	坂下雅美氏蔵
21	石動・福岡・高岡駅間 鉄道開通百周年記念パンフレット	平成10年(1998)	1	29.7×21.0	北陸鉄道金沢－高岡間の開通から100周年にあたる同年11月1日に、高岡・福岡・石動の3駅で記念イベントが行われた際のパンフレット	神保成伍氏蔵
22	「氷見線全線開通90周年記念・S Lシーサイド号運行」イベント告知チラシ	平成14年(2002)	1	29.7×21.0	氷見線開通90周年にあたる同年9月14日に開催されたイベント告知チラシ	神保成伍氏蔵
23	写真「S Lシーサイド号運行記念出発式」	平成14年(2002)9月14日	1	—	氷見線開通90周年記念に運行された「S Lシーサイド号」の出発式の様子	神保成伍氏蔵
24	氷見線全線開通100周年記念イベント 開催案内	平成24年(2012)	1	29.7×21.0	高岡－氷見間全線開通から100周年にあたる同年9月15日に行われるイベントの開催案内	「市民と市政」(平成24年9月号)
25	新聞記事「東京－北陸－大阪 北回り新幹線実現へ」(複写)	昭和42年(1967)12月8日付	1	—	「富山新聞」。東京－北陸－大阪を結ぶ「北回り新幹線建設促進同盟会」が設立。北陸新幹線建設運動の始まりとなる	—
26	新聞記事「『北陸』来年6月にも着工」(複写)	昭和56年(1981)11月10日付	1	—	「富山新聞」。同年、国により整備5新幹線について協議され、「北陸」「東北」が優先着工路線として決定した	—

27	新聞記事「北陸新幹線 石動一金沢間が着工」(複写)	平成4年(1992)8月27日付	1	—	「富山新聞」。この日小矢部市石動一金沢間の起工式が挙。県内初の着工は昭和42年の構想から25年ぶりのことだった	—
28	新聞記事「北陸新幹線 24年富山まで完成」(複写)	平成12年(2000)12月18日付	1	—	「富山新聞」。国により長野ー富山間をフル規格で着工し、平成24年の完成を目指す」とされた	—
29	新聞記事「北陸新幹線・新高岡駅 来月9月に着工」(複写)	平成24年(2012)8月11日付	1	—	「北日本新聞」。9月9日に新高岡駅安全祈願祭・起工式の挙。新幹線駅舎の県内停車駅は、新高岡駅のほか富山駅と黒部宇奈月温泉駅	—
30	新聞記事「北陸新幹線・和の超特急 車両デザイン発表」(複写)	平成24年(2012)9月5日付	1	—	「富山新聞」。車体は流線形で空色・白色・銅色からなる	—
31	新聞記事「北陸新幹線・新高岡駅 湧き出す魅力」(複写)	平成24年(2012)9月25日付	1	—	「富山新聞」。新高岡の駅舎は2階建て。1階にコンコースと改札口、2階にホームが設置される。総工事費は約21億円	—
32	新聞記事「北陸新幹線 列車名決まる」(複写)	平成25年(2013)10月11日付	1	—	「北日本新聞」。列車名は、かがやき・はくたか・つるぎ・あさまの4つ	—
33	新聞記事「歴史都市新たな『顔』・新高岡 全国PRへ大きな弾み」(複写)	平成25年(2013)6月8日付	1	—	「北日本新聞」。新幹線新駅名は、公募を参考にJRが「新高岡」と決定した	—
34	北陸新幹線開業パンフレット	平成25年(2013)	1	29.7×21.0	北陸新幹線開業の告知パンフレット	高岡市制作
35	北陸新幹線開業チラシ	平成25年(2013)	2	—	平成27年春の北陸新幹線開業を知らせるチラシ2種	高岡市制作
36	写真「北陸新幹線車両・W7系」	平成26年(2014)	1	—	JR西日本の北陸新幹線用新型車両「W7系」。12両編成で走行予定	高岡市提供
37	写真「新高岡駅北口(工事中)」・「新高岡駅南口(工事中)」	平成26年(2014)	2	—	建設工事中の新高岡駅北口と南口	当館蔵
38	北陸新幹線開業ポスター	平成25年(2013)	1	103.0×72.8	北陸新幹線開業の告知ポスター	高岡市制作
39	北陸新幹線開業のぼり旗	平成25年(2013)	1	180.0×63.2	北陸新幹線開業の告知のぼり旗	高岡市制作
40	北陸新幹線キッズブック『高岡に「新幹線」がくるんだって! ?』	平成25年(2013)	1	29.7×21.0	小学生向けに制作された北陸新幹線開業ガイドブック	高岡市制作
【中央のぞきケース】						
41	写真「末広町通りを走る路面電車」	昭和29年頃(1954)、同34年頃	2	—	現在はアーケードが連なる末広町通り	神保成伍氏蔵
42	写真「高岡駅前を走る加越能鉄道(株)・万葉線」	昭和56年(1981)	1	—	昭和55年12月に「万葉線」の愛称となる	当館蔵
43	写真「市内を走るアイトラム車両」	平成26年(2014)7月21日	1	—	アイトラム(LRT)は、床面の高さ30cm、フルフラットの完全低床車両	泉田幸夫氏蔵
44	写真「万葉線車両の勢揃い」	平成26年(2014)7月21日	1	—	ハイブリッド新型車両、アイトラム、旧型車両などが並ぶ	泉田幸夫氏蔵
45	ハイブリッド tram「ハイ! トラム」運行パンフレット	平成26年(2014)	1	29.7×21.0	車両に搭載された蓄電池により、省エネ効果が高く、架線のない区間でも走行できる環境配慮型車両	ハイブリッド tram 実走事業実行委員会制作
46	写真「高岡市内を試験走行するハイブリッド tram 車両」	平成26年(2014)	2	—	ハイブリッド tram の試験運行は、平成26年7月21日から8月13日まで	泉田幸夫氏蔵
47	「万葉線の歴史」(複写)	平成26年(2014)	1	—	万葉線の歴史をまとめた年表資料	万葉線(株)公式HPより
48	万葉線沿線マップ		1	—	高岡駅前から越ノ潟までのルートが書かれた沿線マップ	万葉線株式会社・万葉線対策協議会制作

※資料保存のため、一部展示替えをすることがあります。

※写真・複写物・複数資料の寸法は割愛しました。

計 128件175点